伊豆地域栽培漁業推進協議会の開催

平成 27 年 1 月 22 日に、伊豆地域栽培漁業推進協議会の今年度 2 回目の会合が沼津市内浦漁業協同組合で開かれました。この協議会は伊豆地域のマダイ栽培漁業の推進を協議するためのもので、昭和 62 年に発足しています。

今回の議題は、平成 26 年度放流結果の報告と 27 年度の計画の紹介、経費負担、さらに下部組織として伊豆半島の東西にある地区協議会の一本化でした。

平成 26 年度は、県温水利用研究センター沼津分室の生産不調で、目標数（100 万尾）の沖出しができず、神奈川県栽培漁業協会から種苗の融通も受けましたが、結果的に 64 万尾沖出しとなりました。中間育成の生残率は網代、田子、内浦とも例年を下回った結果、放流尾数は 27 万尾と目標の 70 万尾を大きく下回りました。

27 年度は、26 年度計画と同規模の放流を計画しています。県温水利用研究センターからは、生産不調の原因は腹部膨満症であることを踏まえ、①ワムシの栄養強化に市販の腸内細菌叢コントロールを併用、②三重県栽培漁業センターの卵で比較飼育、③生産の早期化（早期ほど腹部膨満症が出にくい）、④紫外線殺菌装置の利用、⑤濾過槽濾材交換の対策を予定していることが紹介されました。

また、本協議会はこれまで下部組織として伊豆半島の西岸と東岸の地区協議会を設けてきましたが、今後は一堂に会して放流事業の検討を行うため、本会議と二つの地区協議会が一本化されることになりました。

議事のあとに、当場から「いくつかの指標から見た静岡県海域のマダイの資源動向」と題して、静岡県海域のマダイ資源は 20～40 年前と比べると増えているという話題提供を行いました。

（長谷川雅俊）